

調査先一覧表

産地や生産者における加工・業務用野菜の取組事例調査先一覧表（概要）

	1. 産地または生産者の基本情報		2. 経営の概要		3. 加工・業務用野菜の取組概要		今後の展開方針・事業者からのひと言
	事業者名	所在地（調査先）	栽培作物名	加工用に取り組んだきっかけ等	栽培作物名・規模	栽培の特徴等	
①	農業生産法人 （有）エーアンドエス	岡山県笠岡市	たまねぎ、キャベツ、かぼ ちゃ	少子化等により、生鮮食品よりも加工・業務用野菜の比率が高くなっている現状で、今後、さらに加工・業務用野菜の需要が伸びるといことで、平成15年度より加工・業務用野菜の生産に取り組んでいる。	たまねぎ・・・11.8ha キャベツ・・・16.9ha かぼちゃ・・・1ha	ほ場の排水は良いことから、畝立ては行わず、平畝栽培を行っている。連作障害を防ぐ観点から、異なる作物を交代で栽培している。ほ場ごとに土壌分析を行い適期追肥等に取り組んでいる。	現在、輸入野菜の上位3作物の国産供給率をあげることを目指している。 土壌分析を実施し、過不足のない施肥や適期追肥による野菜づくりに日々努力している。その取組に加えて栽培技術の確立や省力化、面積の拡大及び物量による低価格・省力化への対応、地域の生産者との協力、加工業務用野菜への特化等に取り組んでいる。今後も近隣の農家の見本となるように日々努力していきたい。
②	JA全農やまぐち	山口県山口市	たまねぎ、キャベツ、ばれいしょ、にんじん、かぼちゃ、その他	集落営農法人等の経営安定のために、水田で栽培が可能な園芸作物を検討した結果、たまねぎとキャベツを推進することとした。加工・業務用野菜は、価格変動がなく、安定経営が図れること、また、簡素化規格による労働軽減が図れることから、平成20年度からたまねぎ、25年度からはキャベツに取り組んでいる。	たまねぎ・・・84t キャベツ・・・157t ※平成26年度出荷実績	地域や県域で病害虫に強く、在圃性がある品種を選定し、キャベツは2kg玉中心の生産を目標に8月下旬～9月上旬の適期定植の指導を行っている。その後、関係者での定期的な巡回指導を行い、防除・追肥の徹底を行っている。	たまねぎは、出荷調製作業・労力の軽減のため、キャベツは法人における冬場の労力・売上の確保として集落営農法人及び大口生産者を中心に、土地利用型作物として推進拡大していきたい。 山口県の重点品目として、今後更なる産地拡大を考えている。取引及び消費拡大についてよろしく願います。
③	（有）細川農園	徳島県吉野川市	ねぎ、にんじん、ハウスしょうが、サニーレタス・玉レタス、スイートコーン	にんじんを中心に、毎年少しずつ規模拡大を行ってきた。現在の出荷先より、加工・業務用ねぎの栽培依頼があり、安定的な経営を図ることができることから取組を始めた。今後は、にんじん、レタス類についても、加工・業務用野菜への取組を検討したい。	ねぎ・・・2.5ha	土づくりにこだわり、減農薬、減科学肥料栽培に取り組んでいる。 連作障害回避のために、ブロックローションによる栽培を行っている。	加工用ねぎの面積や、契約を拡大することは勿論のこと、にんじんやレタス類についても、契約先を見つけ、取り組んでいきたい。 野菜づくりは、土づくりと考えている。土づくりに努力しながら、安心・安全な野菜づくりを目指していきたい。産地にとっていい人材が確保できるように、人づくりにも協力していきたい。
④	農事組合法人 たいよう農園	愛媛県大洲市	キャベツ、たまねぎ	平成18年に露地野菜全般の生産を開始し、市場出荷では経営が安定しないことから、23年より加工用キャベツの契約栽培に取り組んだ。26年より加工用たまねぎに取り組んでいる。	キャベツ・・・152ha たまねぎ・・・51ha	農家との契約を進めるために、問題の洗い出しを行い、農家のニーズに対応した生産体制を行っている。	キャベツの加工ライン、にんじんの全自動皮剥きライン、たまねぎの皮剥機を導入して加工ラインの強化をおこなっている。 農地を耕すことは国を耕すこと、日本の農業問題の解決を願っています。作物を選択し、そこへ経営資源を集中。日本一の農業生産や食品加工のスペックを保有しています。 生産・加工・冷蔵・物流・販売と生産から販売までを一元管理して、6次産業化を追求します。

1. 産地または生産者の基本情報		2. 経営の概要		3. 加工・業務用野菜の取組概要		今後の展開方針・事業者からのひと言
事業者名	所在地(調査先)	栽培作物名	加工用に取り組んだきっかけ等	栽培作物名・規模	栽培の特徴等	
⑤ (株)三豊セゾン	香川県観音寺市	水稲、レタス、グリーンリーフ、青ねぎ、たまねぎ	自然を大切にしながら、農家もサラリーマン感覚で安定収入を得ることを目的に、平成5年に法人を設立。従業員は全国各地から集まり、20～30代が中心。地域の遊休農地を借り受け、規模拡大を図り、雇用労働主体の農業生産へ取り組み、消費者ニーズに対応した販売を行っている。経営の安定を図るため、契約により加工・業務用野菜の出荷にも取り組んでいる。水稲、野菜の生産の他に農作業の受託(育苗、代かき、田植、稲刈りなど)も行っている。近年は、学校給食への食材提供にも積極的に取り組んでいる。	レタス・・・2.6～3.9ha グリーンリーフ・・・0.5～1ha 青ねぎ・・・3ha たまねぎ・・・0.2～0.4ha	レタスをはじめ減農薬・減化学肥料栽培を行っている(香川県の有機農産物認証制度による)。このため、農業使用のタイミングに気を配っている。また、連作障害回避のため、数年に一度は水稲栽培を行っている。	出荷先からのニーズがあれば、加工・業務用野菜の面積・契約を増やしていきたい。また、ねぎについては、台風等の被害を受けにくく、周年収穫を行うことができるので、今後規模拡大を検討している。自然の営み、自然の恵みに感謝する気持ちを忘れないで農業に取り組んでいます。自然の力を借り、作物の力を引き出すことで、持続可能な農業を目指します。正直なものづくりを貫き、適正利潤を追求します。